

第5節 土地・建物の変遷

1. 土地・建物の変遷

千葉大学は、昭和24年に各旧制国立諸学校を包括し発足したが、総合大学の理念からすれば、でき得る限り1か所に集合建設すべきであった。しかし、当時の情勢は、財政上その他の理由から、この実現は相当困難であると思料され、各部局の位置については、当分の間、各旧制学校施設（土地・建物及び附属設備）をそのまま引き継ぎ使用すると共に、不足分については、旧軍施設を大蔵省から借用し充当した。旧制度の学校施設から継承した教育・研究施設を列举すると、表18-6のとおりである。

旧制学校施設を継承したものの、戦災による傷跡もまた引き継がれたのである。学芸学部においては、千葉師範学校女子部の建物を戦災により失っていたため、印旛郡千代田町所在の旧陸軍野戦砲兵学校跡を借入れ使用し、工芸学部においては、東京都所在の3地区の建物が戦災により大半が使用不能であったため、松戸市所在の旧陸軍工兵学校跡を使用した（旧制学校時に借入れ使用し、千葉大学発足2か月前の昭和24年3月大蔵省から所管換）。ちなみに旧制学校施設の戦災による建物損失面積は、千葉医科大学及び同附属医院（矢作・亥鼻地区）19,371m²、東京工業専門学校（東京3地区）13,576m²、千葉師範学校女子部（富士見町地区）10,575m²、合計43,522m²で、戦災による被害がいかに大きかったかが思い知らされる。もし、これら建物が残存し、引き継がれていたならば、千葉大学の位置の設定に大きな影響を及ぼしたであろうと考えられる。

一方、矢作・亥鼻地区の部局においても、戦災による建物不足解消のため、千葉郡津田沼町所在の旧陸軍習志野学校跡を借用し、附属病院分院、学生寮に充てた。また、創設された腐敗研究所（昭和48年9月29日生物活性研究所と改称）もこの地を借用していた。

昭和25年4月に学芸学部が改組され、文理学部が創設されると共に、土地・建物の不足は一層の拍車がかかることとなった。そのため、千葉市小中台町所在の旧陸軍防空学校跡を借用し、学生部・附属図書館・文理学部の施設に充てた。当時の借入施設は、表18-7のとおりである。

千葉大学は発足したものの、その施設の3分の1は旧軍施設の借入りに依存せざるを得なかった状況にあり、当時の苦悩がしのばれる。その後も、施設不足解消のため、東京大学の千葉市西千葉地区の一部を運動場敷地等として借入れ、使用していたこともあった。

この間にも、当初からの念願であった統合整備のための適地を捜し求めていたが、時あたかも、千葉市弥生町所在の東京大学生産技術研究所が東京に移転することとなった。千葉大学ではこの地を統合の候補地として、全学的に努力した結果、昭和36年5月9日関東財務局国有財産地方審議会において承認され、千葉大学において使用することが決定された。この決定に基づき、昭和36年から文理学部留学生課程・教育学部・事務局・学生部・附属図書館・文理学部・工学部・工業短期大学部・教育学部附属小学校・同中学校・同幼稚園・薬学部と順次移転し、昭和41年に移転を完了した。

これより先、昭和38年3月30日に東京大学から千葉大学へ財産の受渡がなされたが、その明細は表18-8のとおりである。

財産受領後は、建物の不燃化に着手し、昭和39年度の文理学部の教室・研究室の新営を始めとして、逐次整備され、現在の建物群となった。ちなみに、財産受領当時の建物で現存しているものは、学生の部室に利用している木造建物4棟（延2,892m²）及び工学部別館（延2,657m²）で、現在の鉄筋コンクリート建物群と比較すると隔世の感がある。

一方、大学発足当時の場所に存置を決めた医学部及び園芸学部においては、医学部が昭和28年度から5年間にわたり、医学部の基礎医学本館・教室等を、園芸学部が昭和34年度から4年間にわたり、園芸学部の教室・研究室等を各々新営した。また、昭和12年の新築当時、東洋一を誇った医学部附属病院も、診療科・中央診療施設等の増設に伴い、その受け入れ余力を失い、昭和48年度から新病院の新営工事に着手し、昭和52年度に至り落成を見た。

他方、生物活性研究所が、発足時からの研究活動の地である習志野地区から亥鼻地区へ、昭和52年10月に移転した。

なお、昭和54年4月現在における千葉大学の土地・建物は資料編8—(2)のとおりである。

2. 大学における施設・設備の拡充整備状況

昭和24年千葉大学が発足した当時は、前記「1. 土地・建物の変遷」で記述したと

第5節 土地・建物の変遷

おり、旧制国立諸学校の施設をそのまま使用したため、各部局が県内各地に散在していた。しかも、老朽化した木造建物、旧軍施設（不適格建物）を利用するなど、大学の機能を十分に発揮するには程遠い施設であった。文部省は、大学施設の整備の立ち遅れを解消するため、昭和35年度に至り、暫定最低基準（現在の国立学校建物必要面積基準にあたる）を設定し、併せて詳細な実態調査を実施した。この結果、施設の不備・不足の実態が把握され、これの解消及び定員増計画等に対応する所要の施設の整備並びに木造老朽建物の改築が促進されることとなった。

昭和37年度に文部省は、各国立大学に対し施設長期計画の作成を求め、これを契機に移転統合計画が具体化し、各国立大学で大規模な移転統合が始まった。

以上のような経緯により、千葉大学も逐次拡充整備されてきており、その内容を現在の地区別に述べると、次のとおりである。

西千葉地区 この地区は、東京大学生産技術研究所が使用していたが、昭和38年3月に千葉大学に所属替となり、昭和37年からこの地区に移転を開始した。当初は、ほとんど同研究所が使用していた建物を使用していた。千葉大学として最初に施工したのは、昭和36年度の教育学部音楽教室の新営である。その後昭和41年度の移転統合完了までの間に文理学部、教育学部、同附属小学校・中学校・幼稚園、工学部、工業短期大学部、薬学部の校舎が新営された。

移転完了後は、それまで東京大学生産技術研究所の旧建物を使用していた附属図書館が昭和42年度に、本部庁舎が昭和43年度にそれぞれ新営された。

その後は、文理学部改組に伴う人文学部・教養部校舎の新営、新設の養護教諭養成所・保健管理センターの新営、また各部局等の増築がされ、移転統合当時まだ閑散としていたこの地区は、現在では、建物敷地の確保に苦慮する状態となっている。

亥鼻地区 医学部は、千葉医科大学当時の場所に存置を決め、昭和28年度から昭和33年度にわたって、医学部基礎医学本館教室等が新営整備され、昭和39年度には、医学部創立85周年記念会の寄附により記念講堂が建設された。

昭和50年度には、看護学部が創設され、昭和51年度に校舎の一部が医学部基礎医学教室に隣接して新営された。

医学部附属病院は、昭和12年新築され、当時は東洋一を誇っていた。しかし、診療科の増加、中央診療施設等の設置に伴い、現有施設が狭隘となったため、昭和47年度から旧薬学部跡地に新病院の建設に着手し、昭和52年度に落成した。

更に、習志野地区にあった生物活性研究所が亥鼻地区に統合されることになり、本館が昭和52年度に新営された。

松戸地区 園芸学部は、千葉大学発足当時の場所に存置を決め、旧制千葉農業専門学校当時の木造建物をそのまま使用していたが、老朽化し、危険建物となったため、昭和34年度から昭和37年度にわたり改築された。その後、学科の新設、拡充改組等により施設が整備され、現在に至っている。

上記3地区のほか、習志野市に生物活性研究所、一般教養課程学生を収容する学生寄宿舍（無名寮）及び医学部学生を収容する学生寄宿舍（人生希望寮）があり、いずれも旧軍施設を改修して使用していたが、生物活性研究所は、昭和52年度に亥鼻地区に移転した。無名寮は、後記する千葉市小中台町にある学生寄宿舍群に、昭和51年度に新営し、移転した。人生希望寮は、昭和53年度に亥鼻地区内に第一学生寮と統合され、移転した。この習志野市の跡地は、教育学部附属養護学校に転用することも検討中である。

千葉市小中台町には、男子学生を収容する学生寄宿舍（無名寮、稲毛寮）、女子学生を収容する学生寄宿舍（睦寮）及び主として東南アジア諸国の留学生を収容する留学生寮がある。

静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本に、園芸学部附属暖地農場（熱川農場）が、また群馬県沼田市下川田町に、同高冷地農場（利根農場）がある。

以上これら各施設毎の拡充整備状況の詳細は、資料編8-(3)のとおりである。

千葉大学は、発足当初は5学部、附属病院及び附置研究所をもって組織されたが、現在は、8学部、教養部、附属図書館、附属病院及び附置研究所を擁する総合大学として整備充実されている。諸施設も主要3地区に統合され、教育研究の場としての機能を十分に果している。しかしながら、大学組織は、今後ますます拡充されることであり、これと併せて施設も整備充実する必要がある。

表18-1 人件費・物件費・施設費の推移

年度	区分	人 件 費	物 件 費	施 設 費	計
昭和		円	円	円	円
25		185,127,646	114,414,737	11,146,340	310,688,723
30		493,688,150	250,866,935	3,838,500	748,393,585
35		702,777,201	451,629,660	52,522,000	1,206,928,861
40		1,567,314,489	1,239,322,282	237,915,200	3,044,551,971
45		3,182,704,342	2,117,257,782	799,668,989	6,099,631,113
50		8,453,545,059	4,311,096,910	989,892,000	13,754,533,969

別 表

表18-2 千葉大学発足直後の主な地区別明細

地区名	所在地	使用部局
矢作・亥鼻地区	千葉市矢作町785	事務局、医学部
	千葉市亥鼻町313	医学部附属病院、薬学部
市場町地区	千葉市市場町26	学芸学部（改組により昭和25.4から教育学部）
小中台地区※	千葉市小中台町824	学生部、附属図書館、文理学部（学芸学部の改組により、昭和25.4から使用開始）
四街道地区※	千葉県印旛郡千代田町四街道	学芸学部分校（改組により昭和25.4から教育学部分校）
岩瀬地区※	松戸市岩瀬351	工芸学部（改組により昭和26.4から工学部）
戸定地区	松戸市戸定648	園芸学部
習志野地区※	千葉県千葉郡津田沼町大久保	腐敗研究所（改組により昭和49.9から生物活性研究所）、附属病院分院、医学部学生寮

注：※は旧軍施設であり、岩瀬地区を除き3地区は大蔵省からの借用施設である。

表18-3 国有財産状況の推移

区分	数量 単位	昭和25年度末現在		昭和39年度末現在		昭和53年度末現在	
		数量	価 格	数 量	価 格	数 量	価 格
土地	平方メートル	576,359	7,436,242 ^円	1,011,920	1,904,581,777 ^円	1,106,009	18,371,589,515 ^円
立木竹 (樹木)	本	4,889	424,021	5,760	10,105,975	5,219	22,789,368
建物	建面積 平方メートル	61,724	26,788,718	106,524	2,746,456,780	119,458	16,975,338,012
	延面積 平方メートル	101,220		212,474		329,213	
工作物		—	7,664,598	—	888,489,767	—	11,742,836,737
船舶(雑船)	隻	0	0	8	1,385,472	21	17,542,498
合 計			42,313,579		5,551,019,771		47,130,096,130

表18-4 土地の取得及び処分一覧

取 得

取得年月日	名 称	所 在 地	面 積	摘 要
昭和 25. 3. 31	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	m ² 13,567	購入
26. 12. 21	医学部気候医学研究室	山梨県南都留郡山中湖村山中	22,730	寄附
28. 6. 3	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	3,316	購入
32. 8. 7	轟町公務員宿舎	千葉市轟町3-7-15	1,829	大蔵省から所管換
33. 10. 30	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	48,363	交換
38. 3. 10	弥生町地区	千葉市弥生町1の33	390,922	東京大学から所属替
38. 10. 30	留学生寄宿舎	千葉市小中台町824	11,068	大蔵省から所管換
40. 3. 10	習志野地区	習志野市泉町3の76の30	23,233	大蔵省から所管換
40. 6. 1	園芸学部附属農場樹木実験地	松戸市小金字大谷1412の9	3,361	寄附
41. 3. 22	園芸学部附属高冷地農場	群馬県沼田市下川田字大竹	71,451	農林省から所管換
41. 3. 30	男・女学生寄宿舎	千葉市小中台町824	19,160	大蔵省から所管換
42. 5. 1	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	22,031	大蔵省から所管換
43. 3. 19	薬学部薬用植物園館山圃場	館山市山本字上州垂	8,039	購入
44. 7. 1	教育学部臨海実習所	館山市大賀字西台	6,518	大蔵省から所管換
44. 8. 20	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	1,110	大蔵省から所管換
45. 1. 31	小中台東・西・南公務員宿舎	千葉市小中台町824	14,111	大蔵省から所管換
45. 1. 31	小中台北公務員宿舎	千葉市小中台町877	5,685	大蔵省から所管換
45. 3. 30	薬学部薬用植物園館山圃場	館山市山本字上州垂	574	購入
47. 9. 22	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	1,621	大蔵省から所管換
48. 3. 31	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	2,005	購入
51. 9. 3	園芸学部附属農場	松戸市松戸648	606	寄附

処 分

処分年月日	名 称	所 在 地	面 積	摘 要
昭和 33. 10. 30	園芸学部附属暖地農場	静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本	m ² 16,883	交換
40. 9. 30	教 育 学 部	千葉市市場町26	23,626	千葉県へ譲与
40. 10. 15	工 学 部	松戸市岩瀬351	62,766	大蔵省へ引継
42. 2. 28	工 学 部	松戸市岩瀬351	8,433	松戸市へ売却

別 表

42. 2. 28	工 学 部	松戸市岩瀬571	18,338	学校法人聖徳学園へ売却
42. 3. 31	教 育 学 部	千葉市市場町26	16,016	千葉県へ譲与

注：名称、所在地共に現在の表示である。

表18-5 物品（重要物品）の推移

年度	機 械		器 具		標 本		合 計	
	数量	金 額	数量	金 額			数量	金 額
昭和31	点 514	円 150,557,000	点 329	円 44,494,411	点 0	円 0	点 843	円 195,051,411
32	815	184,125,163	410	52,599,255	0	0	1,225	236,724,418
33	935	220,660,015	488	60,548,755	0	0	1,423	281,208,770
34	1,127	275,951,339	602	79,292,157	0	0	1,729	355,243,496
35	1,321	335,548,125	739	98,027,712	0	0	2,060	433,575,837
36	1,550	410,698,017	985	129,985,379	0	0	2,535	540,683,396
37	1,954	508,338,018	1,336	180,361,296	0	0	3,290	688,699,314
38	2,488	660,122,925	1,596	219,751,272	0	0	4,084	879,874,197
39	264	351,955,958	54	61,699,739	0	0	318	413,655,697
40	370	511,510,848	68	77,618,739	0	0	438	589,129,587
41	421	607,768,647	76	88,010,101	0	0	497	695,778,748
42	565	857,889,500	107	121,003,911	0	0	672	978,893,411
43	666	1,048,695,706	135	147,237,031	0	0	801	1,195,932,737
44	794	1,252,032,751	152	167,729,634	0	0	946	1,419,762,385
45	908	1,461,095,486	176	194,917,034	0	0	1,084	1,656,012,520
46	1,011	1,687,009,490	181	208,908,701	0	0	1,192	1,895,918,191
47	1,160	2,036,005,688	209	234,040,889	0	0	1,369	2,270,046,577
48	1,273	2,329,651,901	248	278,214,162	0	0	1,521	2,607,866,063
49	1,417	2,693,905,595	287	324,972,012	0	0	1,704	3,018,877,607
50	1,604	3,120,999,709	330	366,822,352	0	0	1,934	3,487,822,061
51	1,850	3,963,225,730	394	451,580,282	0	0	2,244	4,414,806,012
52	2,192	4,735,505,322	456	520,542,842	0	0	2,648	5,256,048,164
53	2,463	5,737,714,452	618	730,732,831	2	1,170,000	3,083	6,469,167,283

注：昭和31～38年度1点5万円以上、昭和39年度以降（改正）1点50万円以上

表18-6 旧制学校より継承した施設一覧

旧制学校名称	新制大学使用 部局等	所在地	土地	建物	摘要
千葉医科大学	事務局・医学部	千葉市矢作町785	m ² 131,421	m ² 10,262	
千葉医科大学附属 医院	医学部附属病院	千葉市亥鼻町313	120,667	40,626	
千葉医科大学附属 薬学専門部	薬学部	千葉市亥鼻町313	10,209	2,483	
千葉師範学校男子 部	学芸学部	千葉市市場町26	41,315	13,433	
千葉師範学校女子 部	学芸学部分校	千葉市富士見町226	25,891	0	昭和25.3.1大蔵 省へ引継
東京工芸専門学 校	工芸学部	東京都港区西芝浦 1丁目	26,739	3,216	昭和26.3.31及び 昭和31.1.24東京 工業大学へ所属替
		東京都太田区萩中 町	5,359	0	昭和25.4.13大蔵 省へ引継
		東京都板橋区石神 井町	10,185	3,574	昭和25.2.1大蔵 省へ引継
		松戸市岩瀬351	88,896	17,202	
千葉農業専門学 校	園芸学部	松戸市戸定648	168,768	10,395	
千葉医科大学臨 海実験室	医学部臨海実験 室	千葉県安房郡勝山 町加知山	1,699	367	
その他(納骨堂 等)	その他(納骨堂 等)	千葉市千葉寺町 他	0	182	
計			631,149	101,740	

表18-7 千葉大学発足後の借入施設一覧

使用部局	土地	建物	借入施設(旧施設名称)	所在地
学 生 部 附 属 図 書 館 文 理 学 部 教 育 学 部 分 校 腐 敗 研 究 所 医学部附属病院習志 野分院 医 学 部 学 生 寮 計	m ² 63,586 257,659 71,414 392,659	m ² 9,514 28,049 3,960 6,085 4,905 52,513	旧陸軍防空学校跡 旧陸軍野戦砲兵学校 跡 旧陸軍習志野学校跡	千葉市小中台町824 千葉県印旛郡千代田町四街 道 千葉県千葉郡津田沼町大久 保

注：小中台地区の借入数量は当初のもので、借入最大時(昭和30年)には、土地145,566m²、
建物18,803m²である。

別 表

表18-8 東京大学からの財産受渡明細

区 分	数量単位	数 量	価 格	摘 要
土 地	平方メートル	390,922	1,236,700,332	
立木竹(樹木)	本	309	506,718	
建 物	建面積	平方メートル	174,313,758	木造 鉄筋コンクリート造
	延面積	平方メートル		
工 作 物			27,564,039	
合 計			1,439,084,847	

事務系役付職員(課長(事務長)補佐以上)一覧

事 務 局 長	玉 川 文 雄	昭和24. 5. 31 ~ 32. 11. 27
	岡 本 律 平	昭和32. 11. 28 ~ 39. 9. 30
	宮 内 昌四郎	昭和39. 10. 1 ~ 42. 3. 31
	海 野 正 次	昭和42. 4. 1 ~ 46. 3. 31
	堀 川 倉 治	昭和46. 4. 1 ~ 47. 3. 31
	田 辺 正 二	昭和47. 4. 1 ~ 50. 4. 1
	吉 川 孔 敏	昭和50. 4. 1 ~ 53. 3. 31
	小 島 和太郎	昭和53. 4. 1 ~
	庶 務 部 長	山 田 秀 吉
大 塚 一 雄		昭和40. 4. 1 ~ 42. 9. 20
大 橋 光 二		昭和42. 9. 21 ~ 47. 3. 31
石 森 正 治		昭和47. 4. 1 ~ 51. 3. 31
手 塚 朝 一		昭和51. 4. 1 ~
(旧 庶 務 課 長)	大 橋 主 城	昭和24. 6. 30 ~ 25. 12. 24
	佐 藤 智 雄	昭和25. 12. 25 ~ 27. 7. 1
	柴 沼 力	昭和27. 7. 2 ~ 37. 3. 31
	山 田 秀 吉	昭和37. 4. 1 ~ 39. 3. 31
庶 務 課 長	荻 原 進	昭和39. 4. 1 ~ 43. 3. 31
	村 松 正 典	昭和43. 4. 1 ~ 45. 3. 31
	泉 田 俊 男	昭和45. 4. 1 ~ 48. 3. 31